

静岡文化芸術大デザイン学部の教授で、乗り物など人の移動に関する計画・設計を考えるトランスポート・デザインが専門。2018年から災害復旧時の物資運搬の負担を軽減する自転車の開発を進めている。愛知県出身。60歳。

—自転車の機能は。
「地震などでの断水時の使用を想定し、給水用のポリタンクを積んで移動できるように車両の前後と足元の計3カ所に荷台がある。浜松自転車協会と協力して18年に試作機を作り、今年7月に試作機を改良した2号機をお披露目した」

災害時に役立つ自転車の開発に取り組む

はっとり 服部 守悦 さん (中区富塚町)



この人

—改良した点は。
「タンクを積む労力を少しでも減らせるよう、足元の荷台を試作機より下方に設置した。今後は電動アシスト機能を付けられないか検討したい」

—デザインに興味を持つたきっかけは。
「小学生の頃から自動車

が好きで、美術大学を卒業後、スズキに入社してカーデザインを長く担当した。表面的なデザインだけでなく、その商品を使ってどんなライフスタイルが生まれるかという体験価値まで考えるのが重要だと学んだ」

—今後取り組む研究は。
「自動運転などの技術が導入されていく中で、車の在り方や存在意義に関心がある。技術の進展に伴い表面的なデザインも従来の車とは変わってくるだろう」

◇ 趣味はミニカー収集。約300台を所有する。
(浜松総局・柿田史雄)